

内水面総合センター産アユは釣れるのか（釣獲試験結果）

内水面総合センター 橋本 寛

1 試験実施の経緯

- ・センター産のアユはF-1 種苗とF-2 種苗の評価（要望）が分かれる傾向にある。
- ・過去の試験ではF-1 種苗のほうがよく釣れるという結果がある。
- ・天然遡上もなく放流もしていない漁場があるので、もう一度試験をしてみてもどうかと、ある漁協組合長さんから提案があった。
- ・R4 年は全てF-1 種苗（比較するF-2 種苗がない）だったので、F-1 種苗のみを放流して成長や生残、釣獲状況を調べることにした。



2 試験の内容

- (1) 放流場所 大野市西勝原（鉄橋の下流、発電所放水口の上流）
- (2) 放流種苗 センター産アユ（F-1 種苗） 約 100kg
平均体重 13.0g（10.3～15.7g）
平均全長 11.5cm（10.5～12.2cm）
- (3) 放流日 令和4年5月31日
- (4) 釣獲試験 令和4年7月1日、8月3日、9月16日
友釣り、網などにより採捕し、全長・体重の測定、由来判別

3 試験の結果

(1) 釣果

試験日	放流後	漁法	人数	時間	釣獲尾数	水温
7/1	31日	友釣り	7人	約1時間半	22尾	?
8/3	64日	友釣り	7人	約2時間	20数尾	19.7～20.0
9/16	108日	網など	7人	約2時間半	67尾	?

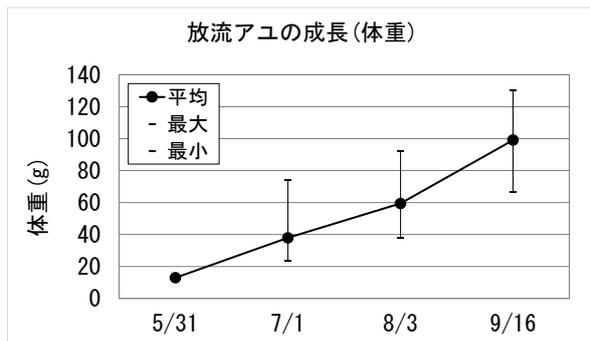
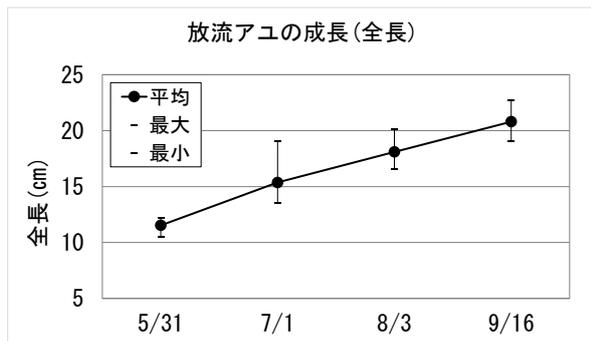
(2) 釣られたアユの由来

- ・外部形態の特徴から、釣られたアユは“海産系人工産”と推測された（センター産の可能性が高いが、一部、違うものが混ざっている？）。

(3) 成長

- ・放流から108日間で全長は9cm、体重は86g成長していた。





4 まとめ

- ・内水面総合センター産アユは釣れた。
- ・釣獲対象として十分なサイズに成長し、流されずに生き残っていた。

<試験に参加して下さった方の感想>

釣獲尾数も大きさも合格点。

成長率が良い。

想像していたよりも少なく感じた。

潜水した時に群れているものがいた。

大きい石も水深もあり、餌となる藻類が多い。

センター産以外の種苗がいるところでも試験が必要。



5 反省点と今後の予定

(1) 反省点

- ・F-1 種苗しか放流できなかった。
- ・水温や努力量（釣獲時間・人数）のデータを正確に記録していなかった。

(2) 今後の予定

- ・F-1 種苗と F-2 種苗を放流して比較する。
- ・水温などのデータはしっかりと取る。



試験に御協力いただきました皆様、

ありがとうございました。

